

第 3 回荒川区基本構想審議会でのご意見と答申案での修正等対応の一覧【未来創造ビジョン（ 第 3 回審議会時は「将来像」）】

ご意見	答申案への反映等の対応	答申案該当箇所
	2040年の荒川区の未来を創造するためのビジョンについて、審議会委員のご意見等を総合的に勘案の上、以下のとおり作成しました。 これまで「将来像」としていましたが、内容が2040年に向けてともに荒川区の未来を創造していくものであることから、「2040年の荒川区の未来創造ビジョン」としました 第3回審議会での個々の委員意見及び意見を踏まえた対応は以下のとおりです ■2040年の荒川区の未来創造ビジョン 「ひとがいきる ともにつくる あらかわ」 ■選定理由 審議会や区民ワークショップ等で抽出された「区民が主役」「主語は区民」といったキーワードを踏まえ、「ひと」が主役・中心であることを示すとともに、「荒川区に関係する全ての『ひと』が、地域の主役として、それぞれの個性や強みを活かして生き生きと活動していく」という前向きなメッセージを出すため、その人の良さや強みを発揮することを示す「活きる」という言葉を採用し、やわらかい表現とするため「ひとがいきる」という言葉を選定しました。 また、審議会や区民ワークショップ等で抽出された「自分たちのまちは自分たちでつくる」「ともにつくる」「つながる・つなげる・つむぐ」といったキーワードを踏まえ、地域のあらゆる関係者が一緒に未来の荒川区をつくっていくという前向きなメッセージを出すため、「ともにつくる」という言葉を選定しました。 そして、これら2つを組み合わせ、「ひとがいきる ともにつくる あらかわ」という将来像を作成しました。	P 1 将来像
「自分たちのまちは自分たちでつくる」という要素が必要ではないか。	「自分たちのまちは自分たちでつくる」という要素を盛り込むため、区民、事業者、団体、行政等の地域の各主体が協力して未来の荒川区をつくっていくという思いを込め、「ともにつくる」という言葉を選定しました。 また、「自分たちのまちは自分たちでつくる」は重要な視点であることから、「分野横断的な取組」の「各政策・施策の実現を加速化させる協働・共創の推進」の中に「『自分たちのまちは自分たちでつくる』という区民の主体的な活動を支えるため、多様な参画の場を創出します。」を追記しました。	P 1 将来像
短文でシンプルなものが良い。「区民が主役」「区民の幸福」「喜び」「幸福感」を示唆するような明るい前向きな表現であれば、区民も賛同しやすいのではないか。	「区民が主役」というキーワードについては、区民、事業者、団体、行政等の地域の各主体が協力して未来の荒川区をつくっていくという思いを込めて「ともにつくる」という言葉を選定するとともに、「分野横断的な取組」の「各政策・施策の実現を加速化させる協働・共創の推進」の中に「『自分たちのまちは自分たちでつくる』という区民の主体的な活動を支えるため、多様な参画の場を創出します。」を追記しました。 「幸福」や「幸せ」というキーワードについては、基本理念「幸せを紡ぎ、幸せを感じる」の中に「全ての区民が望む生き方を選択でき、一人ひとりが描く幸せを追求し、実感することのできるまちを目指します。」と記載しており、「2040年の荒川区の未来創造ビジョン」の「ひとがいきる」という言葉には、区民一人ひとりが主役となり、それぞれの良さや強みを活かして「喜び」や「幸福」を実感する意味合いを込めています。 また、子どもから高齢者まで、区民が分かりやすい、シンプルで覚えやすい言葉を選定することに配慮し、「ひとがいきる」「ともにつくる」といった柔らかなひらがなを採用しました。	P 1 将来像
自分がそこにいることが感じられる「ともにつくる」「ともに」「つながる」「つながり」などのキーワードがよいのではないか。	「ともにつくる」「ともに」「つながる」「つながり」等のキーワードを包含し、地域のあらゆる関係者が一緒に未来の荒川区をつくっていくという前向きなメッセージを出すため、「ともにつくる」という言葉を選定しました。 また、「分野横断的な取組」の「各政策・施策の実現を加速化させる協働・共創の推進」の中に「『自分たちのまちは自分たちでつくる』という区民の主体的な活動を支えるため、多様な参画の場を創出します。」を追記しました。	P 1 将来像
「つなぎ つながり つむぐまち あらかわ」に感銘を受けた。「つ」の文字が「川」という字がもとになっており、荒川や隅田川をイメージした。時代を超えて脈々とつながってきて、他の自治体とのつながりも意識できる。	「つなぎ・つながり・つむぐ」というキーワードについては、人と人とを「つなぎ」、人と人とが「つながり」、未来の荒川区をともに「つむいで」いくという「ひと」に関することを示していることから、「ひと」が主役・中心であることを示すとともに、「荒川区に関係する全ての『ひと』が、地域の主役として、それぞれの個性や強みを活かして生き生きと活動していく」という前向きなメッセージを出すため、その人の良さや強みを発揮することを示す「活きる」という言葉を採用し、やわらかい表現とするため、「ひとがいきる」という言葉を選定しました。また、地域のあらゆる関係者が一緒に未来の荒川区をつくっていくという前向きなメッセージを出すため、「ともにつくる」という言葉を選定しました。	P 1 将来像
・「伝統の技を極める強さ。たくさんの人々とのふれあいを大切にするまち」 ・「伝統の技を極める強さ。全ての人々とのふれあいを大切にするまち」 ・「伝統の技を極める強さ。世界の人々とのふれあいを大切にするまち」 理由 ・荒川区の将来像（案）は、台東区・墨田区と似ていてこの案だと折角の良さがうすくなってしまうと思い、荒川区の良さをもっと強くアピールできるものはないかと考えたため。 ・二つの文章は最初の「伝統の・・・」荒川区に日本に誇る伝統の技があることを表現した。後の「たくさんの・・・」等の文章は世界の玄関、日本の交通の拠点にもなりえる環境にあることと、多文化を受入れてきた荒川区として、異文化を受けいれ、活かし、区の文化と融合して生活するという居住者への願いも込めて将来像（案）とした。	「伝統の技を極める強さ」というキーワードが示す職人の精神や区の伝統は荒川区の「ひと」の力そのものであるとともに、「たくさんの人々・全ての人々・世界の人々とのふれあい」というキーワードも「ひと」に関するものであることから、「荒川区に関係する全ての『ひと』が、地域の主役として、それぞれの個性や強みを活かして生き生きと活動していく」という思いを込め、「ひとがいきる」という言葉を選定しました。	P 1 将来像

誰もが主役になるまち あらかわ 「私」が主役になるまち あらかわ 幸せをつくるまち あらかわ 幸せで結ぶまち あらかわ きずな つなぐ まち	「誰もが主役」「私が主役」というキーワードについては、区民、事業者、団体、行政等の地域の各主体が協力して未来の荒川区をつくっていくという思いを込めて「ともにつくる」という言葉を選定するとともに、「分野横断的な取組」の「各政策・施策の実現を加速化させる協働・共創の推進」の中に「『自分たちのまちは自分たちでつくる』という区民の主体的な活動を支えるため、多様な参画の場を創出します。」を追記しました。 「幸せ」というキーワードについては、基本理念「幸せを紡ぎ、幸せを感じる」の中に「全ての区民が望む生き方を選択でき、一人ひとりが描く幸せを追求し、実感することのできるまちを目指します。」と記載しており、「2040年の荒川区の未来創造ビジョン」の「ひとがいきる」という言葉には、区民一人ひとりが主役となり、それぞれの良さや強みを活かして「喜び」や「幸福」を実感する意味合いを込めています。 「つなぐ」「結ぶ」「きずな」といったキーワードについては、人と人のつながりを示していることから、「ひと」が主役・中心であることを示すとともに、「荒川区に関係する全ての『ひと』が、地域の主役として、それぞれの個性や強みを活かして生き生きと活動していく」という前向きなメッセージを出すため、その人の良さや強みを発揮することを示す「活きる」という言葉を採用し、やわらかい表現とするため、「ひとがいきる」という言葉を選定しました。	P 1 将来像
・「人と風と情の街あらかわ」 人と風（自然）、情＝思いやり/情報＝デジタル（時代に即する）を大切にしていく。 また、これらが融合し共存していく新しい都市社会を目指す。フレーズの中に、人情や風情という読み方もできる。思いやりという不易とデジタルという流行を大切にしていくイメージ。 ・「エン・パワーメントシティあらかわ」 Empowerment＝力をあたえる。エン＝縁や円といった繋がりや循環をイメージ。循環型社会と活力ある社会の実現。 ・「生きがい共創都市あらかわ」 幸福実感からの引継ぎを連想しつつ、区民みんなで支えながらそれぞれの生きがいを創っていくイメージ。 ・「ウェルリビング・シティあらかわ」 Wellbeing＋living＝幸福実感に加えて暮らしの豊かさを大切にする。 ・「テラス・シティあらかわ」 Terrace＝縁側、室内と庭の中間。暮らしと街・自然が共存する。照らす＝未来に向けて希望を照らしていく。 ・「あら、変わるね。あらかわ。」 荒川という言葉を直接的に表現。変化を感じられる街へ。変わる「ね」という表現から、住民目線の日常会話を想起し、期待感が持てる言い回し。 ワーディングの方向性としては、そのフレーズを聞いて荒川を想起しやすい言い回しかどうか（ありきたりな表現や他自治体でも当てはまるような表現は避ける）。ウェブ検索やAI検索をしたときに、一番上に出てきそうな言い回しを目指したい。候補フレーズで実際に検索をかけてみるとチェックしやすいかと思います。また、要素もりもりではなく、シンプルに一言で言える＝覚えられるフレーズ。「荒川ってのは、○○な街なんだよ」と街場で話されるような言い回しかどうか。	「情」というキーワードは、人と人とのつながりをイメージする言葉であることから、「ひと」が主役・中心であることを示すとともに、「荒川区に関係する全ての『ひと』が、地域の主役として、それぞれの個性や強みを活かして生き生きと活動していく」という前向きなメッセージを出すため、その人の良さや強みを発揮することを示す「活きる」という言葉を採用し、やわらかい表現とするため、「ひとがいきる」という言葉を選定しました。 「エンパワーメント」というキーワードは、それぞれの人の力を引き出してともに未来のまちをつくっていくというイメージがあり、「変わる」というキーワードもまちを良い方向変化させていくというメッセージと考えられ、「テラス」は未来に向けて希望を照らしていくという意味合いがあるとのことであるため、これらを踏まえ、区民、事業者、団体、行政等の地域の各主体が協力して未来の荒川区をつくっていくという思いを込めて「ともにつくる」という言葉を選定しました。 「ウェルリビング」というキーワードは、Well-being（身体的、精神的、社会的にすべてが満たされた状態や幸福な状態）と暮らしの造語ということであり、「生きがい」もWell-beingにつながる概念であると考えます。これについては、基本理念「幸せを紡ぎ、幸せを感じる」の中に「全ての区民が望む生き方を選択でき、一人ひとりが描く幸せを追求し、実感することのできるまちを目指します。」と記載しており、「2040年の荒川区の未来創造ビジョン」の「ひとがいきる」という言葉には、区民一人ひとりが主役となり、それぞれの良さや強みを活かして「喜び」や「幸福」を実感する意味合いを込めています。 シンプルに一言で言える、覚えられるフレーズがよいという点については、子どもから高齢者まで、区民が分かりやすい、シンプルで覚えやすい言葉を選定することに配慮し、「ひとがいきる」「ともにつくる」といった柔らかいひらがなを採用しました。	P 1 将来像
（１）コンセプトの必要性と明確化 委員会の議論では、2040年に向けて区民に何を伝えるべきか、伝えたいかのビジョンがないまま意見が出てきたので、フレーズの好き嫌いに意見が終始したように感じます。 もちろんフレーズの好き嫌いは最後まで関わってくると思いますが、少なくとも、フレーズの構成として、「何をターゲットにしたメッセージとするか」のコンセプトを議論する必要があるように思います。ここでいうターゲットとは、例えば、「区民のつながり（コミュニティ）」、「まちの空間的な質向上」、「経済活性」、「生活利便性」、「自然環境の豊かさ」、「下町情緒」、「文化・歴史の尊重」といった切り口がさまざまに考えられます。こうしたターゲットを明確にしたうえで、“言葉選び”、“言葉つなぎ”という作業が重要になってくると考えます。 個人的には、2040年に向けた「まちの空間的な質向上につながるフレーズ」と「区民の交流・つながり（コミュニティ形成）につながるフレーズ」の組み合わせが望ましいのではないかと考えているところです。→まちの質（価値）は、大きくは、「施設・構造物等による物理的事象」と「住民の暮らしびりといった人的事象」によって成り立ってくるということから最少限のキーワード組み合わせとして上記の組み合わせが一考に値するのではないかと考えているところです。 もちろんこの考えがすべてではないので、いろいろな切り口があってしかるべきですし、それを議論することが本会議体の役割になるのですが、ともあれ、将来像のフレーズの「構造」（コンセプト）をしっかりと定めることが重要だと感じる次第です。 （２）第3回委員会までの意見を反映した「将来像」の再検討 将来像のフレーズは、過去のワークショップ実施時のキーワードから引用しているようですが、前回の第3回委員会までにさらに各委員からいろいろな追加キーワードが提示されていますので、そうした意見もふまえたかたちで、フレーズ案を再検討いただくことが望ましいと考えます。	「何をターゲットにしたメッセージとするか」については、審議会等でご意見のあった「誰もが主役」「主語は区民」といったキーワードを踏まえて「ひと」が主役・中心であることをターゲットとするとともに、審議会等でご意見のあった「自分たちのまちは自分たちでつくる」「ともにつくる」といったキーワードを踏まえて「地域のあらゆる関係者が一緒にまちをつくっていくこと」をターゲットとしました。	P 1 将来像

シンプルで多言語化しても伝わりやすい、「誰もが幸せになれるまち」はどうか。「幸せ」を入れることで、今までの「幸福実感都市あらかわ」から大幅に変えない案を提案する。	「幸せ」というキーワードについては、基本理念の1つである「幸せ紡ぎ、幸せを感じる」の中に「全ての区民が望む生き方を選択でき、一人ひとりが描く幸せを追求し、実感することのできるまちを目指します。」と記載しており、短文でシンプルなものが良いという意見もあることから、重複を避け、シンプルに表現するため、「2040年の荒川区の未来を創造するためのビジョン」には記載しませんでした。なお、「2040年の荒川区の未来創造ビジョン」の「ひとがいきる」という言葉には、区民一人ひとりが主役となり、それぞれの良さや強みを活かして「喜び」や「幸福」を実感する意味合いを込めています。	P 1 将来像
最後に自治体の名前が入らないのもあり。読書のまちや俳句などの要素も参考にしても良いのではないか。	区民一人ひとりが、自分たちのまちである「荒川区」の未来創造ビジョンであることを理解し、荒川区に愛着を持っていたけよう、また、読み上げた際のリズムや語感も含め、最後に「あらかわ」という名称を添える形といたしました。 また、「2040年の荒川区の未来創造ビジョン」では、読書や俳句などの個々の具体的な要素を包含した、誰もが覚えやすい言葉であり、かつ、未来の荒川区を一緒につくっていこうという前向きな言葉を選定しました。	P 1 将来像
「ゆいの森あらかわ」の名称を決めた時のように、将来像を区民に公募してはどうか。言葉で示すのではなく、策定過程で示すのが良いのではないか。	審議会は、首長等の執行機関からの諮問に応じて、専門的な視点から重要な施策の調査や審議を行い、意見や提言（答申）をまとめる附属機関であり、本基本構想審議会につきましても、地域の各分野の代表者や学識経験者の皆様に参画いただいております。 基本構想における「将来像」は、2040年に向けた区のまちづくりのビジョンを示す審議会の提言（答申）の中でも最も重要なものに位置付けられること、区長が地域の各分野の代表者や学識経験者の皆様へ「将来像」を含めた検討を諮問しているという経緯、公募区民で構成される区民ワークショップでの議論結果や川の手あらかわまつりでのオープンハウス型での意見聴取結果、審議会委員の意見等、様々な区民・学識経験者の意見を踏まえて「将来像」の案を作成しており、その意見は重く取り扱う必要があること、今後、審議会から区長へ答申後、答申を踏まえた区としての基本構想案を作成の上、議会へ報告し区の代表である議員の意見を聴取するとともに、広く区民を対象としたパブリックコメントを実施し、その中で「将来像」も含めた区民意見を聴取する予定であることを踏まえると、本審議会として意見をまとめた上で区長へ答申することが望ましいと考えられます。 そのため、本審議会においては、「将来像」を審議会としてまとめた上で答申することとし、いただいたご意見については今後の参考とさせていただきます幸いです。	P 1 将来像

第 3 回荒川区基本構想審議会でのご意見と答申案での修正等対応の一覧【基本目標・政策】

ご意見	答申案への反映等の対応	答申案該当箇所
基本目標の順番はこれでよいか。	第 3 回審議会の場合及び追加意見において基本目標の順番に関するご意見がなかったため、現行のままの順番としました。	P3～4「基本目標」
「はぐくみ」や「やすらぎ」などのタイトルは、一言だけではイメージしにくいため、不要ではないか。	「はぐくみ」などの基本目標のタイトルは抽象的でイメージしにくいこと、「将来にわたって『ひと』が育つまち」というタイトルで基本目標を十分表現できることから、「はぐくみ」等のタイトルは削除しました。	P3～4「基本目標」基本目標タイトル
区民が主体的になって行動していこうという議論がある中、「はぐくみ」等のタイトルだけでは伝わらない。サブタイトルの「・・・のまち」のほうが伝わるので、それだけで良いのではないか。	「はぐくみ」などの基本目標のタイトルは抽象的でイメージしにくいこと、「将来にわたって『ひと』が育つまち」というタイトルで基本目標を十分表現できることから、「はぐくみ」等のタイトルは削除しました。	P3～4「基本目標」基本目標タイトル
「はぐくみ」や「やすらぎ」のタイトルだけでは、区民がどう行動すれば良いかが伝わらないため、サブタイトルだけで良いのではないか。	「はぐくみ」などの基本目標のタイトルは抽象的でイメージしにくいこと、「将来にわたって『ひと』が育つまち」というタイトルで基本目標を十分表現できることから、「はぐくみ」等のタイトルは削除しました。	P3～4「基本目標」基本目標タイトル
「はぐくみ」等のタイトルが抽象的過ぎて分からない。「幸福実感都市あらかわ」ではタイトルでどんなまちを目指すか分かりやすかった。	「はぐくみ」などの基本目標のタイトルは抽象的でイメージしにくいこと、「将来にわたって『ひと』が育つまち」というタイトルで基本目標を十分表現できることから、「はぐくみ」等のタイトルは削除しました。	P3～4「基本目標」基本目標タイトル
基本目標のタイトルがひらがなで、優しさが感じられて良いと感じた。	「はぐくみ」等のタイトルは設定しないこととしましたが、「2040年の荒川区の未来創造ビジョン」についてはひらがなを用いるなど、基本構想全体が優しい印象となるよう整理しました。	P3～4「基本目標」基本目標タイトル
「はぐくみ」や「ささえあい」は優しい雰囲気あると感じる。何か別の場面で使われることを望む。	今後、基本構想を推進するための具体的な行動計画として今後策定する「行政運営計画」や各種個別計画での使用を検討します。	P3～4「基本目標」基本目標タイトル
基本目標「みんなが支え合い、生きがいをもって過ごせるまち」の中に行政の支援に関する記載がないため、地域に任せきりと捉えられないよう、行政の支援の要素を反映してはどうか。	基本目標「みんなが支え合い、生きがいをもって過ごせるまち」の実現のためには、区民や企業・団体、行政等の地域の各主体が連携して取り組んでいく必要があることから、本文に行政の支援の要素を追記し、「人と人とのつながりの中で区民、企業、団体が支えあい、行政が支援する、誰もが生きがいをもって過ごせるまちを実現します。」としました。	P3基本目標「みんなが支え合い、生きがいをもって過ごせるまち」本文
人手不足、物価高騰など、足元の課題感が分かるキーワードがあると良い。ネガティブな側面を意識したワードを入れてはどうか。	基本目標「人手不足の深刻化や原材料費・エネルギーコストの高騰による事業者経営への影響、伝統技術や商店の後継者不足などの地域の産業に関する課題へ対応するとともに」という昨今の課題となっているネガティブな側面を意識したワードを入れました。 また、基本目標「安全安心で快適に暮らせるまち」の説明文の中に、「自然災害の激甚化・複合化、地球温暖化への対応、都市インフラや住宅の老朽化といった課題がある中」というネガティブな側面を意識したキーワードを入れました。	P4基本目標「人情・産業・文化が息づくにぎわいのまち」本文 P4基本目標「安全安心で快適に暮らせるまち」本文
景観街づくり塾の参加区民の共通の価値は下町の風情であったことから、下町の風情や情緒あふれる街並みといった荒川区らしい要素を入れてはどうか。	「下町」は荒川区らしさの要素の1つであることから、基本目標「人情・産業・文化が息づくにぎわいのまち」の中に下町の文言を加え、「下町ならではの人情味あふれる地域コミュニティのさらなる活性化を図るとともに、町工場・商店街・繊維街・銭湯などの荒川区独自の地域資源を活用した産業・観光振興によるにぎわいと交流の創出、地域に根ざした伝統や文化の保全と継承など、地域の持続的な発展に向けた取組を進めていく必要があります。」としました。 また、政策「産業」に「活力と魅力にあふれた、下町ならではの商店街・個店づくりを支援します。」という下町に関する文言を挿入するとともに、政策「観光・交流」に「下町ならではの街並みや商店街をはじめ、荒川区固有の地域資源を最大限に活かし、ブランド価値を高めます。」という下町に関する文言を挿入しました。	P4基本目標「人情・産業・文化が息づくにぎわいのまち」本文 P9「産業」政策の方向性 P10「観光・交流」政策の方向性
政策「子育て」の目指す姿に「親が安心して子育てできる」と記載されているが、子育てを行う対象を「親」に限定しないほうが良いのではないか。	政策「子育て」の目指す姿及び政策の方向性に記載のあった「親」を「親や養育者」に修正しました。	P5「子育て」目指す姿 P5「子育て」政策の方向性
子育てを行う対象については、近年では「養育者」という表現に変わってきている。	政策「子育て」の目指す姿及び政策の方向性に記載のあった「親」を「親や養育者」に修正しました。	P5「子育て」目指す姿 P5「子育て」政策の方向性
基本目標「将来にわたって人が育つまち」では、学校教育のみならず、地域のつながりのハブとしての学校を地域の財産として最大限活用すべく、今年度より荒川区でも導入された「学校運営協議会（コミュニティ・スクール）」を文言として確実に位置づけるとよい。学校教育（子ども）はもとより、老若男女、地域全体がはぐくまれるような地域を創造するビジョンが明確化されることを期待する。	保護者・区民等が学校運営に参画・支援・協力し、地域ぐるみで児童・生徒の健全育成を図ることを目的とした「学校運営協議会」の要素を盛り込むため、政策「教育」の政策の方向性に、「保護者・区民等が学校運営へ参画・支援・協力するなど、学校を支える地域活動の推進により児童生徒の健全育成を図るとともに、教職員がやりがいをもって生き生きと働ける環境を整えます。」と記載しました。 「学校運営協議会」という文言については、他の政策とのバランスを考慮し、基本構想を推進するための具体的な行動計画として今後策定する「行政運営計画」の中に位置づけることを検討します。	P5「教育」政策の方向性
政策「若者」の中に「若者が活躍できるまち」といった表現があると、「若者が活躍しなければならない」と捉えられてしまう可能性があるため、目指す姿の中に「若者が安心して暮らすことができる」といった文言があると良いのではないか。	政策「若者」のタイトルを「若者が自分らしく安心して活動・生活できる環境づくり」に修正するとともに、目指す姿を「若者が自分らしく、安心して活動・生活していくことのできる環境が実現しています。」に修正しました。	P6「若者」サブタイトル P6「若者」目指す姿
生涯学習・スポーツに「社会教育」の要素を含めてほしい。	文部科学省が示している考え方において、「生涯学習」は「社会教育」を包含する概念であることが示されていることから、「生涯学習」という言葉で整理しました。	P6「生涯学習・スポーツ」

政策「高齢・介護」について、「介護」が高齢者に付随している、高齢者は介護されるというイメージを社会に与えてしまう可能性があるのではないか。	「高齢者は介護される」というイメージを与えることのないよう、政策「高齢・介護」について、「高齢者」と「介護を受ける方」を分けて記載することとし、政策名を「高齢・介護」から「高齢」に修正するとともに、政策の方向性を「当事者の意思を尊重し、高齢者が地域の一員として自立して生活し、生きがいを持って暮らすことのできる環境を整備します。」、「介護予防を進めることにより高齢者が健康を維持して元気に活動できる環境を整備するとともに、介護を受ける方が安心して生活できる環境を整備します。」に修正しました。 これとあわせて、タイトルが「いつまでも住み慣れた地域で自立した生活の実現」となっていましたが、実際には介護される方が完全に自立することは難しいことから、「安心して暮らし続けられる支えあいの環境づくり」に修正しました。 また、目指す姿についても、「高齢者と高齢者を支える人たちを地域全体で支援し、高齢者が安心して暮らし続けられる、支えあいのまちが実現しています。」に修正しました。	P7「高齢」タイトル、サブタイトル、目指す姿、政策の方向性
「障がい・生活支援」は別物で考えてほしい。「低所得者の自立支援等の生活支援による社会参画・自立支援」は障がい＝低所得者と感じる。障がいについては、「障がい者への理解啓発の促進、誰もが尊重され共に暮らせる環境づくり」、生活支援は「自立支援制度をつかった社会参画」とまとめるのはどうか。	政策「障がい・生活支援」については、「障がい者への支援」と「生活困窮者等を含む生活支援や民生委員等との地域の各主体と連携した福祉基盤の充実等」の両方の要素が入っていましたが、別の内容であるため、政策を「障がい」と「地域福祉」の2つに分けました。 これに伴い、「障がい」のサブタイトルを「障がい者が安心して暮らすことができる環境づくり」とし、「地域福祉」のサブタイトルを「支援が必要な人をつなぎ、支えあう地域づくり」としました。	P8「障がい」全体 P8「生活支援」全体
政策「障がい・生活支援」の「あらゆるバリアフリー」の部分に、海外の方向けの多言語対応を入れてほしい。	政策「障がい・生活支援」は障がい者の方を対象としたバリアフリーについて記載していましたが、多言語対応については外国人の方が言語の違いを超えて安心して生活していけるようにする点から、横断的な取組である「人権・平和・多様性」の中の「多様性」に包含される整理とし、今後、基本構想を推進するための具体的な行動計画として策定する「行政運営計画」の中に位置づけることを検討します。	P8「障がい」 P15「人権・平和・多様性の尊重」
基本目標「人情・産業・文化が息づくにぎわいのまち」については、「新たな」がキーワードであると思うため、タイトルや文章に入れてはどうか。	基本目標「人情・産業・文化が息づくにぎわいのまち」各政策の複数箇所に「新たな」という言葉を入れ、政策「つながり」に「多様な人々が参加でき、区民が自然と集い、活動し、互いを支えあうことのできる、人と人との新たな「つながり」を生み出すコミュニティ形成を促進します。」、政策「産業」に「地域を支えてきたものづくり産業等の既存産業とスタートアップ支援等による新たな産業創出を促進するとともに、立地のポテンシャルの高さと既存産業の技術・魅力を活かした荒川区ならではの産業を積極的に推進します。」、政策「観光・交流」に「荒川区ならではの魅力が広く認知され、区内外から多くの人々が訪れ、交流を通じて新たな価値が生まれる、活気にあふれたまちが実現しています。」、政策「文化・芸術」に「多様な文化・芸術が交流し、荒川区を舞台に新たな魅力が創造されていく環境を整備します。」としました。	P9「つながり」政策の方向性 P9「産業」政策の方向性 P10「観光・交流」目指す姿 P10「文化・芸術」政策の方向性
他の基本目標では政策の各要素が合わさって基本目標が達成される構造になっているが、基本目標「人情・産業・文化が息づくにぎわいのまち」については、基本目標に「にぎわい」という言葉と政策の「地域のにぎわい」という言葉が重複している。「地域のにぎわい」を例えば「観光」等の表現に変更してはどうか。	基本目標と政策とで「にぎわい」という言葉が重複していること、政策「地域のにぎわい」の内容は、観光の要素、都市交流により人が移動し、交流することによる様々な効果（経済面でのプラス効果等）の要素があることを踏まえ、政策「地域のにぎわい」の名称を「観光・交流 - 魅力と活気にあふれた地域づくり - 」に修正するとともに、政策の方向性に「様々な交流を推進することにより荒川区に魅力を感じる人を増やし、関係人口を増やしていきます。」を追記しました。	P10「観光・交流」タイトル、政策の方向性
政策「防災」のサブタイトルについて、現行では「災害から区民を守る対策の推進」となっているが、区民は守られるだけではなく、自らが主体的になり防火防災訓練の実施や、地域コミュニティを強化することが重要であり、また、現在は自らを守れる力をつける「自助、共助」を推進しているので、サブタイトルは「災害に強いまちづくりの推進」や「災害に強いまちの実現」等としてはいかがか。 この「災害に強いまち」には、人による地域防災力の向上と基盤整備の両方を含む意味を持つ。	政策「防災」のサブタイトルについて、自助・共助も含めた表現とするため、「自助・共助・公助が一体となった災害に強い地域づくり」に修正しました。	P11「防災」サブタイトル
政策「防災」の政策の方向性として、木密地域の解消等、火災・震災対応に関しては手厚いが、風水害対応に関しては全く触られていないことを危惧する。荒川区の名のとおり、本来は河川に密着する区であるが、この百年間で進んだ暗渠化や水防の充実により、この土地ならではの川の恵みとともに恐ろしさを忘れてしまっているのではないか。「もはや過去のこと」ではなく、2019年の台風で荒川・隅田川が越水寸前の危機に瀕したことを忘れず、今後の地球規模の気候変動を見据えて、一言でもよいので「風水害」の対応について、荒川区だからこそ触れるべきである。	政策「防災」に風水害に関する内容を盛り込むため、政策の方向性に「地震・風水害をはじめとする各種災害への区内滞在者を含めたハード・ソフト両面での対策の推進や適切な情報の発信等により、あらゆる人の安全を守る取組を進めます。」、「区民の防災意識の向上を図るとともに、多様な主体と横断的に連携することにより、地震や風水害時の避難体制の確立をはじめとする地域防災力の強化を推進します。」と記載しました。	P11「防災」政策の方向性
住みやすい都市環境は空間的な質が重要であるため、「都市環境・景観形成」といったように、都市の基盤と目に映る景観の要素を入れてはどうか。	政策「都市基盤」の「目指す姿」に景観の文言を入れ、「交通利便性が高く、防災性を兼ね備え、景観に調和した都市基盤が整った、安全で快適に暮らせるまちが実現しています。」としました。 また、「政策の方向性」に景観の文言を入れ、「道路や建築物の老朽化対策や長寿命化を確実に進めるとともに、防災機能が高く、まちの景観に調和した都市基盤を整備します。」としました。	P12「都市基盤」目指す姿、政政策の方向性
政策「都市基盤」において、「公共交通ネットワークの充実」を謳うのは容易いが、より実効性と時代の要請に合う形を追求するために、例えばIoTやSociety5.0より先のビジョン、次世代モビリティなどに言及するのは如何か？	政策「都市基盤」について、次世代モビリティの活用可能性を示すため、「新しい移動手段・交通システムの活用」という文言を追記し、「公共交通ネットワークの充実や新しい移動手段・交通システムの活用などにより、子どもから高齢者まで誰もが移動しやすい都市環境を実現します。」としました。	P12「都市基盤」政策の方向性
「みどり」の文言をどこかに入れたほうがよいのではないか。政策や基本目標に「緑豊かな」等の文言を入れてはどうか。	基本目標「安全安心で快適に暮らせるまち」に「自然環境の保全やみどりの拡充を進めていく」という文言を入れるとともに、政策「住環境」の目指す姿に「様々な人々が安心して快適に住み続けられる、身近にみどりを感じられる住環境が実現しています。」という文言を入れました。また、政策の方向性にも「みどり」の文言を追記しました。	P12「住環境」サブタイトル、目指す姿

第 3 回荒川区基本構想審議会でのご意見と答申案での修正等対応の一覧【分野横断的な取組（第 3 回審議会時は「基本構想を実現するための区政運営方針」）】

ご意見	答申案への反映等の対応	答申案該当箇所
「基本構想を実現するための区政運営方針」の中に「人権・平和・多様性」が入っているが、これは「区政運営」であるのか。	「人権・平和・多様性」を含め、「持続可能な行財政運営の推進」「区の魅力の向上とシビックプライドの形成」「各政策・施策の実現を加速化させる協働・共創の推進」の 4 つは分野横断的に対応するものであり、行政だけでなく区民や団体等と連携して対応するものも含まれていることから、「基本構想を実現するための区政運営方針」というタイトルを「分野横断的な取組」と端的な表現に修正しました。	P14～15「分野横断的な取組」タイトル
「基本構想を実現するための区政運営方針」の部分にも、端的に表現するタイトルを設定してはどうか。	横断的な取組についてはそれを端的に表すタイトルを設定することが難しいことから、横断的な取組として何をしていくのかを分かりやすく示すため、「区の魅力の向上とシビックプライドの形成」「各政策・施策の実現を加速化させる協働・共創の推進」などをタイトルとして設定しました。 なお、「持続可能な行財政運営の推進」「区の魅力の向上とシビックプライドの形成」「各政策・施策の実現を加速化させる協働・共創の推進」「人権・平和・多様性の尊重」の 4 つは分野横断的に対応するものであり、行政だけでなく区民や団体等と連携して対応するものも含まれていることから、「基本構想を実現するための区政運営方針」というタイトルを「分野横断的な取組」と端的な表現に修正しました。	P14～15「分野横断的な取組」タイトル
「高ベネフィット」や「クロスセクター」といった具体的な文言が必要ではないか。	「高ベネフィット」を区民が感じることができるようにするためには、様々な政策を効率的・効果的に実施し、成果を上げていく必要があるため、「横断的な取組」の「持続可能な行財政運営の推進」に「合理的根拠に基づく政策を立案する E B P M (Evidence-Based Policy Making) の考え方を導入する」「中長期的な行財政運営戦略に基づき、選択と集中による効果的な資源配分を行う」「A I などの先進技術を積極的に活用し、質と利便性の高い行政サービスの提供を行う」といった「高ベネフィット」を意識した記載を入れています。 「クロスセクター」については、基本構想に掲げる基本目標や政策を推進していくために重要な要素であるため、「分野横断的な取組」に「各政策・施策の実現を加速化させる協働・共創の推進」を横ぐしを指すものとして掲げ、様々な主体との協働を推進するとともに、各基本目標や政策を分野横断的に推進してまいります。	P14「持続可能な行財政運営の推進」 P14「各政策・施策の実現を加速化させる協働・共創の推進」
区民が「主体的にまちづくりをやっていく」ということをもっと出してはどうか。「主体性」や「自分たちで」という内容を「協働・共創」の部分に盛り込んでどうか。	「分野横断的な取組」の「各政策・施策の実現を加速化させる協働・共創の推進」の中身として、「『自分たちのまちは自分たちでつくる』という区民の主体的な活動を支えるため、多様な参画の場を創出します。」を追記しました。	P14「各政策・施策の実現を加速化させる協働・共創の推進」
主語は区民ではないか。「私が」という主体性をもっとアピールした方が区民が能動的に動くことができるのではないか。	「分野横断的な取組」の「各政策・施策の実現を加速化させる協働・共創の推進」の中身として、「『自分たちのまちは自分たちでつくる』という区民の主体的な活動を支えるため、多様な参画の場を創出します。」を追記しました。	
「誰が」行うのかというイメージが沸きづらく、区民の具体的な動きが分からないため、区民がやるぞと思えるような表現になると良いのではないか。	「分野横断的な取組」の「各政策・施策の実現を加速化させる協働・共創の推進」の中身として、「『自分たちのまちは自分たちでつくる』という区民の主体的な活動を支えるため、多様な参画の場を創出します。」を追記しました。	
「人権・平和・多様性の尊重」の中に、「人種」の要素を入れではどうか。	「人権・平和・多様性の尊重」のうち、「人権」の中には人種の違いに関する尊重の要素が入っており、「多様性」の中にも人種の違いを認め合う要素を含めています。	P15「人権・平和・多様性の尊重」